

1. 開会	
	開会
2. 市長挨拶	
大滝副市長	あいさつ
3. 委嘱書の交付	
	<p>西村委員へ代表交付</p> <p>※村上市立地適正化計画推進懇談会設置要綱の規定による。</p> <p>任期は、令和7年10月1日から令和9年9月30日まで</p>
4. 委員・事務局の紹介	
	委員・アドバイザー・事務局の自己紹介
5. 座長選任	
	座長:西村伸也 委員選任
6. 座長挨拶	
	西村座長あいさつ
7. 職務代理者の選任	
	職務代理者:棒田恵 委員選任
8. 概要説明	
事務局 野澤主査	<p>①村上市立地適正化計画の概要について</p> <p>【資料1】について事務局より説明</p>
委 員	公共交通ネットワークを形成し、拠点のポイントになるかと思うが、公共ネットワークは、既存のものをそのまま利用するのか。あるいは新しく作られるのか。
事務局	全く新しい交通システムについては検討していない。既存の公共交通・ネットワークを見直しして、利便性を確保できるようにネットワークの形成を図っていく。
座 長	誘導施設の定義は?イメージしづらいがどんな施設であるか。
事務局	都市機能を有する施設であり、具体的には官公庁・金融機関・医療機関・福祉施設・介護施設・商業施設など人が多く訪れる滞留している施設を考えている。
座 長	ほぼ住宅以外の施設と考えてよいか。
事務局	そのようになる。
委 員	防災の点から、現在市で指定されている避難所が多くある。主に統合された学校施設があるが、避難所としては現実的な施設でない。水道・電気も通っていないし掃除もされていない。いざという時にそこに逃げられるのか。この計画を作成した段階で、ある程度そこも見直しをされていくのか。避難民も減っていくし、交通体系も変わってくる。防災計画と整合をとってもらいたい。
事務局	本計画の策定においては、防災指針の作成も義務付けされている市の防災計画と連携し整合を図っていくため、その際にご助言いただきたい。
委 員	商工業などの都市施設をいかにして誘導していくのかひとつ大きいところだと思う。介護事業所を運営するものとしては、指定権者が県など村上市以外もある。全然違うところに建てたいというとき、ある程度メリットがあればいい。人口がバラバラよりは、介護事業所としても、集約されている方がサービスも提供していきやすいし、上手にま

令和7年度 第1回 村上市立地適正化計画推進懇談会概要

	ちづくりを進めていけるとよい。
事務局	誘導区域・誘導施設の設定に向けて、事業所の開設にあたっては、こういった施策があればいいか等関係課とも協議しながら進めていきたい。
委 員	まちに対する思いであるが、荒川地区は、平日の夜もまた日中も、まちなかは寂しいと感じている。この先こどもたちも自分のまちは人も少なり、店もなくなってしまうイメージをし感じるのではないか。将来的にはもっと大変になるので、自分たち若い世代がストップできるような構造がとれないのか考えている。1ha あたり人口密度40人の区域についてはどれくらいの場所がクリアされているのか。また、計画の区域を定めることによる都市構造としては、広範囲にわたるので絞るのが大変だと思うが、もう一度イメージについて詳しく説明をお願いしたい。
事務局	人口密度40人維持できている場所については、村上の山居町・南町のエリアや田端町などが該当しており、旧村上の中心地など住宅街が形成されているところが該当しているところになる。区域を定めることで市が目指す都市構造については、資料の赤字が都市機能・居住誘導をしていきたい区域。資料の黄色が地域の中心拠点であり、市独自で区域の中心拠点を設定したいと考えている。主に用途地域の指定がない、神林・朝日・山北のエリアであり、すでに市街地化されているところなど公共機関や都市機能施設が集中しているところを中心拠点とする方向で検討している。その他区域以外の緑と拠点を結んでいくイメージである。
座 長	1ha40人のイメージできたか。
委 員	もっと人口密度多いと思っていた。
座 長	これを7割にしていかなければならないというのは、相当の目標である。
委 員	<p>居住誘導区域外や都市機能誘導区域外になるが、誘導施設を有する建築物などの開発行為の届出が必要となるが、基本禁止はできないのか。ここには建てられません。ここに建てるとメリットがあります。など、もっとメリハリをつけないと全然誰も動かないし、もっと厳しく線引きをすべきである。また、地域を結ぶ交通は、もっと絞っていいと思う。高校生が駅から一部乗っているが、日中はほとんど乗っていない現状であり、効率が悪い。市街地にくることがメリットになるようなことをしないと誰も動かない。</p> <p>学校統廃合において建屋の空いたところは、別の方法として活かす方法を考えたほうがいい。他の自治体では、宿泊施設・企業誘致などして、法人税や家賃など優遇している例もある。課題とは別に人を集める形を駅周辺も含めて並行してやっていく必要がある。</p>
事務局	<p>区域外の届出義務が生じることになるが、区域内の市が保有する遊休地や空き家などに建ててもらうなど、事業所との事前相談などもやりながら進めていきたい。</p> <p>メリハリについては、例えば、リフォームの補助金について、区域内の建物は補助率を上げ、区域外は補助率を下げるなどのグラデーションを付けるなど、緩やかに施設や居住を誘導できるような仕組みを考えていきたい。また、公共交通における路線等の見直しなどについては、公共交通担当部署と情報共有していく。</p>
委 員	基本は鉄道であり、駅の側に色々なものを集めて、電車移動も中心に考えていくと人も集まりやすい。新潟駅の CoCoLo は商業施設としては平日も混んでいる。核となるのは鉄道だと思うし、鉄道の側であれば人も集まりやすいのではないか。車はとにかく置く場所を考えなければならないし、決して便利だとは半分言えないと思う。電車移動を

令和7年度 第1回 村上市立地適正化計画推進懇談会概要

	中心に考えてもらいたい。
事務局	駅に関しても重要な交通結接点となる場所である。駅のあるエリアも中心の拠点として考えていくところで、軸として区域の設定を考えていきたい。
委 員	人口密度の低いところ 40 人以下のところを増やすための計画について何かあるか。
事務局	今すぐ増やすことはなかなか難しい。基本としては人口密度をできるだけ維持していきたいが、ずっと維持し続けるのは難しい。計画期間は 20 年間であり、人口密度の維持・向上について 20 年間かけて取り組んでいけるように計画策定を考えている。
委 員	子供も少なくなり、学校も統合されていく。学校の近くであれば子供は一番いいと思うが、現に村上第一中学校と・村上東中学校の統合も予定されているが、学校も変わると違う地域に慣れるまで大変である。住んでいるところも環境も変わっていく。なかなか対応していくのは難しい。人口密度が少ないところに対しては、どういうふうに進めていくのか。また、利便性だけ考えて移住しようと思う人が今後どれだけ増えていくのか。
座 長	人口の少ないところの非常に切実な問題は、どのように対応していくのか。
事務局	村上市全域で 1174k m ² という広い市域の中で進めていかなければいけない計画である。中心地であっても、人口密度はそれほど高いところとは言えず、人口密度の低いところの手立ては現実的には難しい。居住誘導区域・都市機能誘導区域の中で計画を立てていくが、市全体の施策の中で、総合計画などの施策も併せて進めていく。誘導することだけがこの計画の目的ではない。手立てなども含めて色々な政策についても市全体で考えていく必要があり、委員の皆様にも注視していただいて計画を進めていきたい。
委 員	今後限界集落になっていくだろうという地域は、人が関わってくことで早かれ遅かれいずれ計画を進めるうちに問題がでてくる。集落が小さくなっていくところに対しては、非常に困難・厳しいことを突きつけなければならないときがくると思う。 設備業者・工事関係業者は、地域にいけばいくほどやる人が少なくなっていて、村上はこれだけ広い土地があり、サービスを行き届かせるためには限界が出てくる。10 年後 20 年後、人口がとびとびになっているだけ急な対応はが難しくなる。コンパクト化は望ましいことであるが、計画については、最終的には人がからむというところで困難でないかと感じる。
委 員	学校の話が出たが、将来、10 年後中学生に上がる子供の数は決まっている。県の高校の再編計画もあり、令和 10 年には村高の統合が決まっている。学校が誘導施設にあたれば、そういった観点から公共交通について考えていくのは具体的にイメージできる。また、計画の策定状況をみると、村上市は遅い方であり、早いところは策定後 10 年以上経過している。上手に計画を作られて進められている自治体はあるのか。
事務局	長岡市は計画の内容が良いということであり、防災指針に関しては、かなり作りこみがされていて質の高いものとなっている。
委 員	計画に関する規制・義務化などは同じことだと思う。10 年経って目に見えて誘導できてたり、公共交通など整備されて良くなったなどの成果は上がってきているのか。長岡市など例にとって、10 年後村上市としてのイメージはできるのか。
座 長	この計画は、具体的な計画をそんなに大きく含まない。1 対 1 で現状の成功や失敗など計画の内容や対応が見えづらい。マスタープランや都市計画の戦略など現状の都市における人口減少や交通網の衰退など、縋り交ぜになって結果として表われてくる。計画

令和7年度 第1回 村上市立地適正化計画推進懇談会概要

	<p>がこうで結果がこうであるとは難しい。この計画を作成することで 現状の衰退や欠点を食い止めていき、少しでも改善の努力の一步であると考えてほしい。</p>
委 員	<p>関係人口の観点から、村上市の枠外や枠の中をどう整備していくのか。もっといいレイアウトがないのかということである。人口は年間 1000 人位減っている。いくら整備しても無理がある。この計画はこれで進めながら、同時並行で外からの人をどうやって呼び込んでくるかを一緒にやらないと解決しない。</p> <p>交流人口を増やして結果的に関係人口に持っていく。また災害時に ボランティアで来てくれるという仕組みや関係づくりを今からしないと、防災の観点からすると危ない。整備しながら同時並行して外からの人をどうやって呼び込むか考えてほしい。</p> <p>山形の移住に関しては、家族に対しインセンティブをかなり出している。村上市はなかなかそこまで整備されていない。外からの人間を引っ張りこむ努力も同時にやっていく必要がある。</p>
委 員	<p>人口減少が続く中、税収も減って橋梁などの補修も全国的にもままらない状況の中、ある程度交通機関など施設関係をどうやって維持していくのか。もっと考えればどこに配置するのが一番ベストなのか考えていかないと最後成り立たなくなる。村上市の将来像、人口密度を保つため、将来の人口はどこを目指していくのか含めて考えていかなければならぬ。これから区域内は中心部に集約しつつ、また区域外とのネットワークをどうしていくかという観点を加味しながら 20 年の計画、将来像、その先見越してどうしていくのか考えながら計画策定に向かっていければいい。</p>
オブザーバー	<p>限界集落・中山間地を持っている市町村の話を見ると山間部を切り捨てるのかという問題が必ず出てくる。都市のまちの話はコンパクトでよいが、並行しながら山間部・区域外の集落などどうやって維持していくのか。交流人口や関係人口など並行しながら説明をし進めていく方がいい。県の総合計画の指標の評価というところで、建築関係の先生からも、この計画は良い計画だが市民の誰が知っているのかという意見があった。また、見直しをしている自治体についても 19 のうち 2 市町村しかなく、国交省からも見直しを進められている。計画策定にあたり行政内部の計画とならないように、市民の方へ分かりやすく見せて理解してもらえることが重要である。</p>
座 長	<p>周辺の地域をどういうふうに扱っていくかという問題は、大事な視点であり今後の策定にあたり注意するようお願いする。</p>
委 員	<p>あまり知られていない計画をどのような形で進めていくのか。2050 年には人口 30,000 人程度、高齢者の割合が 50%以上となる見込みである。特養の待機者については入られないいらいだちがあり、介護の担い手も非常に少ない。</p> <p>また、市内から介護関係に進む学生も少なく、都市に流れてしまい、村上市には残らない状況である。現在ミャンマーから介護の専門学校と連携して、将来村上地域で働いてくれる学生について、新潟市の学校に通いながら、土日は施設でバイトして生活費を稼いでいる。どうやってこの地域に人口を呼び寄せることも大事なことである。この計画については、趣旨も必要性も理解できたし、やっていかないと持続可能な都市にはならない。進め方の問題で、人の生活がベースにあるため、進め方について検討が必要であると改めて感じた。</p>
事務局	<p>行政のスリム化もあるが、この計画について懇談会の中でも分かりやすい資料を作成し説明をしながら、また市民に対してもどう見せていくか、理解してもらえるような工</p>

	夫が必要である。
座 長	<p>人の生活は、年を取れば取るほど変えにくくなる、変化を受け入れにくくなり移住などとてもない話である。都市の集約化を進めまとめていくのは相当な力と時間と根気が必要な計画になるはず。進めていかないと分散したままだとちががあかないので、世代を超えても少しずつ変化していく先にそれがあるというのを見越していくものでその一歩である。そこへ向かってどういう手当てをしていくか。ひとつひとつ具体的に人の顔を想像しながら考えていく。</p> <p>専門を担っている委員の経験や生活の範囲の中から感じたことをそれぞれ計画に載せていきたいという事務局の戦略であり、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
委 員	<p>問題の先は人口減少が原因でものすごく難しい問題。これまでの行政とは真逆でタブーな部分もあり説明が非常に難しい。土地の問題に関して言えば、誘導地域に対して優遇する。外れた部分については届出の規制の網をかけていくもの。不動産の問題は大きく区域外の土地を無償で手放せるものなら区域内に来たいが、生まれ育った土地であり、相続していくべき土地がある。売りたいが値段もつかず無償でも譲渡できない土地が村上にはたくさんある。誘導して区域内に来るのはいいが、残った土地に対しては固定資産税も課税されていく。土地の後始末に対して何か優遇されるなどの対策があれば、空き家・放置空き家対策にも繋がっていくのではないかな。</p>
事務局	<p>空き家や区域外で残された土地に関する対策などについても、庁内検討会議等において具体的な対策について考えていきたい。</p>
座 長	この計画に盛り込むことは可能か。
事務局	<p>この計画に盛り込んでいけるかどうか改めて県や国に確認していく。また他課の計画の方でそういった対策について盛り込めるように働きかけていく。</p>
委 員	<p>誘導区域においては、人が集まってくるわけで、区域内の不動産売買がさかんになる動きが出てくるが、誘導地域内と地域外の差がますます生じてくる。土地売買についても変わってくることになりデリケートな話でその辺りを考えてほしい</p>
委 員	<p>全国的にも運転手は不足しており、地域公共交通活性化協議会でも近場を走っている路線バスの利用者が少ない路線などは二つをひとつにしたり、大きく路線変更している。バスの走れない空白地域においては、利用者が少なくとも足を確保する必要があり、ハイヤー・タクシー協会にお世話になっている。また、山北地域においては、おたすけさんぽくによる自家用有償輸送により公共交通を維持している。計画通り進んでいくと核になるエリアとそこを結ぶ核内のコミュニティバスと、核と核をつなぐバスが必要だが、輸送を担えるか懸念がある。どこかのタイミングでハイヤー・タクシー協会や貸切専用バス会社などと併せて検討していく。コンパクトシティの核内を全部徒歩で移動できるかということそうではない。山北のようにいつのタイミングから切り替えると決まっているとやり易い。核になるエリアに住民を移動させるタイミングも一斉ではない。運行を担える戦力がどこまで村上市にあるか見極めながら進めていくべきである。10年後、20年後バス会社やハイヤー・タクシー協会だけで全部が出来るわけではなく、その辺も含めて計画の協議をしていきたい。</p>
委 員	<p>ハイヤー・タクシー協会は、ドライバーもお客様も高齢化している。ドライバーも人員不足であり、乗る方も少なくなってきた。自分が辞めたら終わりになる。荒川タクシーの継続については厳しい状況である。人口減少が進み、今後村上市として成り立って</p>

令和7年度 第1回 村上市立地適正化計画推進懇談会概要

	いくのか。若い人がもっと働きやすい場を作るべきであった。胎内市のデマンドタクシーもやっているが、これまで4社倒産している状況であり、タクシー業界で生き残るのが非常に難しい。赤字であってもこの先も困っている方を救っていかなければならない。地域のためにやっており、市からの支援がなければ成り立たない状況である。
事務局	非常に厳しい現場の声を伺えた。現実的に非常に厳しい状況であることを認識した。地域公共交通計画との連携も重要であり、しっかりと計画に盛り込んでいきたい。
オブザーバー	地域公共交通計画や防災指針の作成にあたり、関係課と情報を共有し連携をしながら進めてもらいたい。
事務局	②村上市立地適正化計画策定スケジュール(案)について 【資料2】について事務局より説明
座 長	本日出された意見や持っていただいた視点はとても大事であり、バックグラウンドの専門性を反映したものであり、大事に持ち続けていただいて、できるだけ色々な視点から計画を検討していけるよう協力していただきたい。
委 員	不動産・タクシーの問題については、次回に回答や方向性を示してほしい。
事務局	どこまで回答できるか。公共交通とさらに連携して回答できるよう進めていきたい。土地利用計画について、都市計画マスタープランのほか農業振興区域における計画もあり、そういったところの計画との連携をし庁内内部で土地利用に関して意見をいただいたものは検討して回答したい。
9. その他	
事務局	事務連絡 次回の懇談会は、令和8年2月10日(火)若しくは2月17日(火)を予定
委 員	いろんな問題がある中で、段階を以って色々な配慮をしていかなければならない。バスの問題やどこに何を誘致するかなど、それぞれの地域で最大限生活が充実できるように計画を立てれるといい。
10. 閉会	
小野 課長	閉会のあいさつ